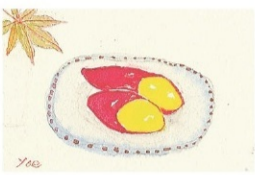


### 教科書の新聞記事比較

# 論説



題 宇山田  
(足羽高) 怜  
カッタ・神内 八重

県内小中学校で全国紙と福井新聞の記事などを読み比べるNIEの授業が行われている。15日から新聞週間が始まる。多様な考えを育むとともに、自分たちの住む福井に目を向けるきっかけにしたい。

今春改訂された光村図書の小学国語の教科書に、3年前に陸上男子1000円で日本人として初めて10秒の壁を突き破った桐生祥秀選手の記事が登場した。偉業達成の地は福井県営陸上競技場。県内では、教

科書に掲載された全国紙と

県民の様子を詳しく報じた。

み、新聞の読み比べを通して

く感動するはずだ。

京都の新聞記事だけでなく、福井新聞の記事も比較し、見出しや伝え方などを学ぶ小学校もあった。

記事の切り口は3紙さまざまだ。全国紙が世界のス

て自分の考えを構築する学びにつながるからだ。さらに、地元紙の視点も読み解くことで、古里への愛着を

育む効果を期待したい。論調の違いからニュースのポイントを探ると同時に、身近な課題を考える契機にもなるのではないか。

014年4月の2紙の社説が掲載された。福井市清水

例え、桐生選手の記事

育む効果を期待したい。

論調の違いからニュースのポイントを探ると同時に、身近な課題を考える契機にもなるのではないか。

## 古里を考えるきっかけに

ターゲットに立った桐生選手ら日本勢に焦点を当てたのに対し、京都の新聞は桐生選手の走りの原点が京都と滋賀にあったと説明した。福井新聞は見出しで、福井で記録を達成したこと

中ではこの2紙に加え、当時の福井新聞の論説についても、生徒たちがNIEの担当者から説明を受けた。

の読み比べでは、伝えたい読者によって各新聞が切り口を変えて取材や執筆していることを知るだけでなく、当時の県営陸上競技場の盛り上がりを感じることができるところ。競技会などで子どもたちが同じトラックに立ったとき、より深い。

実社会で私たちは、会社の同僚や地域の人らとの話し合いなどを通して、判断することが求められる。社会とつながる教育が重視されているだけに、小中学生のころから多様な考えに触れ、深く考える習慣を新聞を通して身に付けてほしい。

目をの当たりにし歓喜に沸く

を正確に読み取る力を育

現場で新聞を活用する大切さがうたわれている。情報

を正確に読み取る力を育